

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270201445		
法人名	津軽保健生活協同組合		
事業所名	健生介護センター虹		
所在地	青森県弘前市大字向外瀬字豊田292の1		
自己評価作成日	平成24年6月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成24年7月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療機関、往診、訪問看護等の連携が整っており、看取り介護等、安心した生活を提供できる。
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、年2回、開催される「虹大会」に参加し、事業所全体の理念を確認、共有している。入居者が安心して穏やかに過ごせるような暮らしの支援を目指し、日々の介護サービスを提供している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者及び職員は、地域住民や組合員に気軽に立ち寄りもらえるよう、夏祭りや行事への参加を呼びかけている。また、年1回は入居者、職員で近隣のスーパー、交番、学校、保育園等に挨拶回りに出掛け、交流を図っている。毎年、近隣の小学校のねふた集会や福祉施設の夏祭り等に招待され、参加している。また、年2回、地域清掃にも入居者や職員が参加し、交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	生協の介護施設でもあり、地域の組合員の班会に参加して、認知症の学習会を行い、予防や介護方法を普及させている。また、施設見学や福祉系大学の実習受け入れも頻繁に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では毎回グループホームの運営やサービス、入居者の様子について報告している。評価の報告も行って意見をいただき、今後の取り組みに活かしている。最近、近隣施設と合同で防災訓練を行ったが、これも会議で問題提起されたものである。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、市の担当職員、地域包括支援センター職員の両方、もしくはどちらかが必ず出席している。毎回「ひなた新聞」を配布し、グループホームの毎月の行事等を報告し、意見交換を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約書で入居者及び入居者代理人の権利として身体的、精神的拘束を受けないこととあり、契約時に説明している。身体的、精神的拘束を全職員が理解しており、身体拘束を実施していない。玄関には鍵を掛けておらず、入居者が外出したい時には、職員と一緒に出掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内外の研修に参加してもらって報告書を提出し、全職員が高齢者虐待の具体的な内容を確認して、介護を提供している。また、日常的な虐待が見過ごされないよう、注意もしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	弘前市で行っている成年後見制度の学習会に参加している。また、実際に制度を利用している入居者と担当者の相談に乗っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は疑問点や不安なことがないかをゆっくりと時間をかけて確認し、説明している。また、退去時も各機関と連携し、支援を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回、家族交流会を開催し、家族から日頃感じていること等の意見を出してもらっている。また、事業所内に意見や要望を入れる「虹の箱」を設置し、法人の委員会で話し合いをし、運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を月1回開催し、職員の意見を聞く機会を設けている。職員から出された意見は職責者会議や管理部に報告し、運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員個々の状態を把握しており、役職や委員会の委員に委任し、職員がやりがいや向上心を持てるように支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所独自の年間研修計画を作成し、研修に参加してもらっている。県主催の研修会にも積極的に参加し、研修後は職場会議等で報告をしてもらい、学んだことを職場で活かせるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修会への参加や相互訪問の受け入れを行い、交流を図っている。また、災害訓練を一緒に行い、ネットワークづくりができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の身体状況、思い、希望、ニーズ、不安の把握に努めている。また、気軽に相談できる体制を設け、信頼関係を築いていくことを意識し、対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思い、希望、ニーズを直接聞き、把握した上でサービスを提示し、合意をいただいた上でサービスを開始するように心掛けている。開始後の不安や不明点にも、気軽に質問し、相談できる体制を設けており、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者、家族のニーズに対して必要なことを見極め、柔軟に対応できるよう努めている。実行不可能なことに対しては検討したり、他機関と連携を図り、本人や家族へ提示し、移行の支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の得意分野で力を発揮してもらいながら、日々生活する上での感情(喜怒哀楽)を共感し、理解し合えるような関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と密に情報交換していくことで、これまでの生活歴や介護状況、今後に対する思いを把握し、本人と家族との関係を維持・向上できるように支えている。また、少なくとも月に1回は本人の様子を伝えるように取り組んでおり、その都度、思いや気づきを共有することで、共に支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に本人から、また、家族の面接や日々の会話からも馴染みの場所や人を把握するように努めている。また、必要に応じて連絡を取り合ったり、外出や交流ができるよう、支援している他、馴染みの方が亡くなった後の弔問にも出掛けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が助け合い、支え合いながら生活することの大切さを理解している。仲の良いし悪しで孤立やトラブルが発生することがないように、個々の性格を把握し、能力や個性を尊重できるような人間関係づくりに努めている。また、トラブルが発生した際も、後に残らないよう、配慮に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、本人や家族の様子を伺うよう、電話や訪問をしており、必要に応じて、相談を受けたり、支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中等からも本人の希望、思い等を把握し、記録に残して職員間で情報を共有できるようにしている。実現可能なものは出来るだけ実施するように努めており、困難な場合でも出来る限り要望に近づけるように努力している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前より、家族とのヒアリングにより、入居者の生活歴やライフスタイルを把握しており、入居してから本人、友人、家族等からの情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント時の情報を基に、出来るだけ本人が過ごしやすい生活リズムとなるように努めている。利用者それぞれの出来ない部分より、出来る部分に着目して、支援を行っている。また、状態変化に応じてカンファレンスを行い、状態の把握や対応を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見や意向を把握し、日常生活での気づき等を個別に記録しており、一人ひとりの対応への反応や改善点を分析して、現状に即した介護計画となるように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人や家族の意見や意向を把握し、日常生活での気づき等をこまめに記録するようしており、職員間で情報を共有している。それにより、一人ひとりの現状や改善点等を明確にし、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホーム内に空室がないため、ショートステイやデイサービスの機能のサービスは行っていない。面会や宿泊等については、予約のない突発的な希望にも応えている。また、ボランティアや組合員の協力を得て、本人、家族の希望に応じた対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や行事の際に民生委員やボランティア団体、組合員等に呼びかけ、協力をしていたっている。避難訓練の際等には、消防署等の地域資源を活用できるよう働きかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族が希望している医療機関への受診や往診ができるように支援している。また、状況に応じて専門医(歯科、皮膚科、泌尿器科)へ相談し、受診や往診が出来るように支援している。受診結果については、面会時や電話にて、その都度、報告している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、入居者の普段の状態や持病等を十分に把握している。看護職員の不在時には、他事業所の看護職員と気軽に相談できるような体制になっている。また、協力機関との連携体制も整えており、実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と、入居者に関する情報交換や状況に応じて話し合いを行う体制を整えており、実施している。また、早期に退院できるように、家族を含めて、病院関係者と密に連絡や相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の重度化や終末期の対応について、事業所としての方針を明確にし、マニュアル化している。入居者や家族の意向を踏まえた上で医療機関との連携を図り、意思統一をして、随時、家族や医療機関と共に話し合いを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間の対応も含め、緊急時の対応マニュアルを作成している。全職員が、応急手当や救急救命の研修への参加や訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間を想定した避難誘導策を作成しており、職員と入居者が一緒に定期的な訓練を行っている。訓練は、消防署等の協力を得て実施しており、運営推進会議でも話題にあげて、近隣施設と合同の訓練を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の言動について否定や拒否等をせず、意向を考慮した上で受容的な対応を行っている。事業所全体で守秘義務や個人情報情報の取り扱い等について配慮しており、信頼関係を保てるよう、支援を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の力量に応じて、自己決定を促すような場面づくりを積極的に行っている。言葉で十分に意思表示が出来ない場合でも、表情や反応を読み取ることで、自己決定へつなげている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スケジュールにこだわらず、出来る限り入居者の希望に沿えるよう、支援している。その日の精神、身体状況を考慮し、常に支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の個性や希望を尊重しつつ、介助を要する入居者には、季節や天候に合わせた衣類の支援を行っている。散髪についても、希望に応じて施設を訪問する理容院を利用していただいたり、馴染みの理容院への外出の支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望や好み、苦手なもの等を考慮して食事を提供している。一人ひとりの能力に応じた調理準備や後片付け等を、職員と一緒にコミュニケーションをとりながら行っている。また、職員は必ず利用者と一緒に食事をとり、会話を楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分摂取量、健康状態を把握して個別に記録しており、体調管理を行っている。一人ひとりの好物等を把握しており、嚥下機能が低下したり、体調不良時には医師や看護師、栄養士と相談しながら、摂取量、食事の形態、内容等の変更を行い、対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔内の洗浄や義歯の手入れを行うことで、清潔保持や口腔内の異常を発見できている。一人ひとりの能力に応じた支援を行い、必要性や習慣性につながるよう働きかけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや習慣を記録、把握しており、出来る限り、おむつの使用や排泄の失敗がないように支援している。おむつや尿取りパット使用時でも、常に使用しない方法や工夫をするように検討している。尿意や便意の確認時、誘導時、失禁時は入居者一人ひとりに合わせた声掛けや対応を行い、羞恥心やプライバシーに十分配慮し、支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	全職員が便秘の原因や及ぼす影響を理解している。食材の工夫や歩行、軽スポーツを積極的に促して、支援している。下剤使用時にはその都度、個別に記録し、使用量や頻度について検討を行い、安易に薬に頼らないよう、支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴の曜日はおおまかに決めているが、入居者の希望や意向、その日の身体状況等で曜日や時間帯、入浴方法を変更している。入浴の際には、入居者の羞恥心や負担感を理解し、配慮して支援を行っている。また、一人ひとりに合わせた声掛けや誘導方法、入浴方法を実施し、工夫を凝らして、本人が出来る限り楽しく、負担がないように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのその日の身体状況や体力に合わせ、昼食後や間食後に臥床を促している。夜間、安眠が取れていない方でも、出来る限り眠剤を使用しない方法を検討し、支援に努めている。眠剤等の使用時には、常に状態観察を行い、個別に記録して、医師、看護師等と相談をしながら支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を個々のカルテに綴り、全職員が薬の内容を把握できるように整備している。服薬時はトロミを使用したり、一人ひとりに合わせた支援を行い、飲み終わるまで見守っている。また、服薬による状況変化は、医師や看護師、家族へ報告し、相談しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や希望、力量等を把握し、役割や楽しみを促す働きかけを行っている。一人ひとりの状態に配慮しながら、昼食作りや食器洗い、洗濯物たたみ等を担当して行ってもらったり、嗜好品、楽しみごと等を生活の中に取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回は一人ひとりが買い物やドライブに出掛ける機会を設けている。希望に合わせて、近隣やホーム駐車場の散歩に出掛けたり、気分転換できるように支援している。また、希望の内容によっては、ボランティアや組合員の協力を得て支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、入居者がお金を持つことの大切さを理解しており、個々の金銭管理能力を把握して、所持してもらっている。買い物の代行支援も行っている他、金銭の動きは一人ひとりの金銭ノートにその都度、記入するようにしている。家族の面会があった際等、使途や残金を報告し、確認してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者への電話の取り次ぎや電話をかける際は、電話口まで付き添い、時には、呼び出しの代行を行う等の支援をしている。手紙や送付物については他の入居者に知られないように、プライバシーに配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間で居心地良く過ごせるよう、テレビ音量、照明、温度、湿度の調整に配慮している。ホール、廊下に作品等を飾り、季節感を演出する等、工夫をしている。また、懐かしい映像のDVDや音楽のCDも活用し、昔を思い起こせるような工夫も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には食卓テーブルやソファ、中庭にはベンチを設置し、一人または数人で過ごせるような場所を確保している。また、入居者同士の関係性に配慮した環境作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で愛用していた物や馴染みの家具、小物等を積極的に持ち込んでいただいている。置き場所や飾り付け等は、本人の意思で好きなように配置していただき、居心地良く過ごせるよう、支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、浴室、廊下に手すりを設置しており、安全に過ごせるよう、配慮している。一人ひとりの身体状況に合わせ、ベットの設置やセンサーマットを使用してもらい、安全かつ自立した生活を送れるように工夫している。また、要所に目印を設置してわかりやすくする工夫や個々に合わせた表示の設置をし、支援を行っている。		